

# 伊丹福音ルーテル教会 三位一体主日礼拝のしおり

## 2022年6月12日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編8編4-9節

あなたの天を、あなたの指の業を わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。  
そのあなたが御心に留めてくださるとは 人間は何ものなのでしょう。  
人の子は何ものなのでしょう あなたが顧みてくださるとは。  
神に僅かに劣るものとして人を造り なお、栄光と威光を冠としていただかせ  
御手によって造られたものをすべて治めるように その足もとに置かれました。  
羊も牛も、野の獣も 空の鳥、海の魚、海路を渡るものも。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### 第一部 み言葉の部

#### 使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

自分中心の私たちは自分の理性によっては父なる神様を知ること、父なる神様に近づくこともできません。しかし、聖霊様は、私たちの心を照らし、招き、きよめ、支えて、私たちを救うために来てくださり、死んでよみがえってくださったイエス様を信頼する信仰を与え、そだててくださいます。私たちは主のものとされ、父なる神様が私たちを尊んで、私たちを赦し、私たちを神様の子どもとして歩ませてくださっています。父、御子、御霊のひとりのまことの神様、私たちをあなたのご愛によって生かし、どうぞ知恵と力を尽くして、犠牲を惜しまずに苦しむ人々の力とならせてください、悲しむ人々の友とならせてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どものように 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 5章 1-5節

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

## 福音書朗読：ヨハネによる福音書 16章 12-15節

言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

## 讃美歌 502番

- 1 いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす  
主よりたまわる 天(あめ)の糧に 飢えし心も 飽き足らいぬ  
※世にあるかぎり、きみの栄えと いつくしみとを 語り伝えん

## 2 救いの恵み 告ぐるわれは 楽しみ溢れ 歌とぞなる

滅びをいでし この喜び、あまねく人に 得させまほし ※

- 3 くすしきめぐみ あまねく満ち、あるに甲斐なき われをも召し、  
あまつ世継ぎと なしたまえば、たれか洩るべき 主の救いに ※ **アーメン**

### 説教：「真理をことごとく悟らせる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

本日は三位一体主日という日曜日です。三位一体ということばはお聞きになったことがあるでしょうか。私たちの生活の中で、また礼拝の中で、三位一体の神様、父と御子と聖霊の、ひとりのまことの神様がお働きくださっています。私たちは洗礼を受けるときに、父と御子と聖霊のお名前によって、つまり三位一体の神様の権威と責任のもとで洗礼にあずかります。また、礼拝の中では使徒信条を告白するときに、お気づきのように、わたしは父なる神様、御子イエス様、そして聖霊様を信じます、と告白しています。さらに、礼拝の最後に、生活の現場に派遣される時、父、御子、御霊の神様にみ栄えがあるようにと頌栄を賛美しています。

信仰はどなたに信頼しているのかが大切ですね。自分の心の持ち方はその方への信頼の在り方です。ですから礼拝では三位一体の神様がお働きくださり、私たちを導いてくださることを覚え、神様が父であり、御子であり、聖霊である三位一体のお方でよかった、と感謝します。

たとえば私たちの一年の礼拝を考えてみますと、大きく分けてふたつのことを主題にしています。イエス様のご生涯をたどる半年と、イエス様がお教えくださったことを聴く半年です。ここで父と御子と聖霊のひとりのまことの神様がお働きくださっています。

まずはイエス様のご生涯をたどるのですが、教会の一年はクリスマスを待ち望むアドベントから始まります。だいたい11月の後半の日曜日にあたります。そして四本のろうそくに毎週ひとつずつ灯をともしながらイエス様の誕生を迎えます。クリスマスです。ヨハネによる福音書3章16節にありますように、神はそのひとりごイエス様をお与えになるほど世を、そして私たちを愛してくださいました。父なる神様が歴史をかけて私たちのためにイエス様をお送りくださった日がクリスマスです。

まことの人となられたまことの神さまであるイエス様は、神様に喜ばれる人生をお送りになったばかりか、私たちの罪のために十字架で死んでくださいました。イエス様とひとつとされる洗礼によって、神様は私たちの罪をイエス様に免じてお赦しくださいました。そしてイエス様は私たちに永遠のいのちを与えるためによみがえってくださいました。洗礼によって私たちはイエス様の復活のいのちにもあずかります。イエス様は復活によって罪と悪魔と死に打ち勝って

くださり、私たちが神様の子どもとしてくださいました。御子なるイエス様の復活をお祝いするのがイースターです。

そして先週の日曜日は聖霊が使徒たちにくださった聖霊降臨日、ペンテコステをお祝いしました。なぜ聖霊なる神様がおられるのでしょうか。父なる神様がイエス様をお遣わしくくださり、神の御子であるイエス様が私たちの罪の赦しと永遠のいのちを与えてくださるということ以上に何が必要でしょうか。聖霊様は私たちにみ言葉と聖礼典を用いてお働きくださり、私たちのうちに信仰を生み出し、また育ててくださる神様です。今日読まれたみ言葉でイエス様がお約束くださっているように、聖霊様は私たちに真理を教えてください。聖霊様は私たちが試練や苦難に会うときに、そこで希望にあふれて忍耐をする力を与えてくださいます。

父なる神様の喜びのクリスマス、御子なるイエス様の復活されたイースター、聖霊なる神様がくださったペンテコステをお祝いしました。三位一体主日はこれを受けて、父、御子、御霊のひとりのまことの神様を感謝する主日です。来週からは聖霊降臨後の主日が始まります。イエス様が父なる神様についてお語りくださったことを、聖霊様が私たちに教えてください。聖霊降臨後主日は11月中旬まで26週ほど続きます。

聖霊なる神様は私たちお互いが生まれながらに神様から心の離れた罪びとだということをよくご存じです。素直に悔い改めません。素直に信じません。私たちの関心は自分にあります。自己中心な私たちはいくら神様が語られ、神様がご自分を無にされて私たちのところに来てくださり、神様が私たちのために身代わりになって死んでくださって罪の赦しを与えてくださると言っても、耳を貸さず、神様のみもとに来ようともせず、神様を求めず、神様の恵みに信頼することはありません。それどころか、神様に背を向け、神様から離れ、神様なしで生きていこうとします。そこに私たちすべてを救うために父なる神様が熱い思いで歴史をかけて遣わしてくださった救い主のイエス様が来てくださっているのに、生まれながらの私たちは残念ながら冷たい無関心な心しか持ち合わせていません。

聖霊様はそんなどうしようもない救いようのない私たちが、自分中心であったことを認めて方向転換をして神様の隣りに信頼できるようにしてくださいます。神様がお与えくださる罪の赦しと新しい命を自分への贈り物として受け取り、自分のような者もイエス様によって神様の子どもにされたという光栄さに感謝をしながら、イエス様の復活の証し人としていきいきと生きていきます。神様に愛されている自分らしく、しっかりと光と希望を掲げます。そして、世にあっては毎日、苦しい現実に向き合いながらも、必ず私を鍛えて、すべてをよきに変えてくださる父なる神様を信頼することができます。そして、自分のことだけではなく、隣人に役立つ隣人と共に幸せをつくっていく愛に生きることに焦点を定めます。

たしかに自分中心な自己実現のために努力を重ねる生涯はわくわくしますね。夢に向かって仲間とともにいろんな苦労を重ねながら、一緒に何かを達成するのは大きな喜びです。そこには

失敗するかもしれない心細さ、自分の力不足を突き付けられて、打ちのめされて立ち上がれなくなるかもしれないスリル、人々に置いていかれるかもしれない不安や取り残されるかもしれない不安、人の力や努力を超えて支配する大自然や世界情勢の力に翻弄されるかもしれない危うさがあります。それでも私たちは揺れ動く不安をかき消すために、焦りながらも何かで紛らわせ、気分転換をして、解決を先延ばしにしながら、もがき続けています。

しかし、聖霊によって神様の子どもとされた者の生涯は、何かを求め、何かを追及して、将来に期待をかけて無力で怠慢な自分を鞭打つ生涯ではありません。聖霊様は私たちを聖書のみ言葉の約束と、洗礼や聖餐を用いて、私たちは自分で自分を変えることができなくても、イエス様によって既に神様の子どもとされていることの確証をお与えくださいます。既に私が私として生きることを根本的に赦されています。まだ罪びとでありますのに、イエス様によって神様の子どもとされ、神様に信頼されています。罪と裁きの恐れから既に救い出されています。

聖霊様は私たちの今の本当の姿を示してください。自分の無力さや心のたるみや際限のない甘えた心があることを自覚します。それにはがっかりしますが、しかし、それをごまかすことはしなくてよいのです。その私の罪を赦すために、父なる神様がイエス様をお遣わしくださったことを聖霊様は示し続けてくださるからです。ですから、自分のふがいなさによって聖霊様のちからが制限されることはありません。聖霊様は私たちがいエス様によって自己中心や妬みや自尊心から解放されたことを示してください。聖霊様は、イエス様が殻を破ってくださいましたことを確信させてくださるのです。

私たちは神様の子どもとされたすがすがしい喜びと感謝を、自分らしく、力いっぱい、創造的に、どんどん育てられて、体全体で表現し、与えられた召しに従って使命に生きるように励まされます。自分の弱さや罪深さを感じながらも、私たちは聖霊様の与えてくださるイエス様を仰ぎ見る信仰によって、日々悶えながらも克服させていただくのです。私たちはこのような自分にはもったいない生涯を、自分のためではなく、隣人のために、そして、同じ主イエス様によって罪を赦され新しくされた仲間と共に、生きていく特権にあずかっているのです。

イエス様は十字架にかけられる前にお弟子たちに、聖霊様を送りますと、約束されました。それはまだ、お弟子たちがイエス様のすべてを理解することができなかったときです。聖霊様は、真理を教えてください。父なる神様がイエス様を救い主としてお送りくださったこと、イエス様を信じて歩む生涯が、神様の愛の注がれた神様の子どもとされた生きがいと満ちたものであるかを教えてください。

父と御子と聖霊の、ひとりのまことの神様はなんとすばらしい方でしょうか。私たちを作り、また新しくし続けてくださる父なる神様。私たちの罪を赦して、父なる神様の子どもにしてください。またご自分をお与えくださった御子なるイエス様、そして罪びとの私たちがみ言葉と聖礼典によって神様に向き直り、神様の恵みに信頼して歩み続けるように力となってください。聖

霊様が、あなたの神様です。三位一体主日である今日、教会をあげてあらためて感謝をしましょう。

これから始まる一週間は、真剣に生きていくなれば私たちひとりひとりにとって決して甘い一週間ではないかもしれません。さまざまな困難や生きにくさに出会うでしょう。私たちを取り巻く環境は劇的に変わらないでしょう。しかし、そこから逃げ出さないでも、気分を紛らわせなくてもいいのです。すでに聖霊様によってイエス様に信頼し神様の子どもとされる信仰に導かれているのですから、希望をもって、鍛錬として耐え忍び、神様の力をご自分のうちで体験する一週間になりますように、共に祈りましょう。教会としても積極的に人々に神様のすばらしさをお分かちし、地域に、隣人に益する歩みができますように、聖霊様の慰めと励ましにゆだねつつ、共に工夫して歩んでまいりましょう。

「父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けてあなたがたに告げる』と言ったのである。」ヨハネによる福音書 16章 15節  
人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

### 聖餐の部

#### 主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

#### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

#### 設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン

だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

**配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番**

**赦しの宣言**

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

**主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節**

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

**讃美歌 515 番 献金 献金感謝の祈り**

1 「十字架の血に きよめぬれば、来よと」との御声を われはきけり。

※主よわれは いまぞゆく、十字架の血にて きよめたまえ。

2 弱きものも みちからを得、この身の汚れを、みな拭われん。 ※

3 まごころもて せつに祈る 心にみつるは 主のみめぐみ。 ※

4 ほむべきかな わが主の愛、ああほむべきかな わが主の愛 ※ **アーメン**

**頌栄：讃美歌 541 番**

父、御子、御霊のおお御神に ときわに耐えせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

**祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

**後奏**